

平成29年1月23日

平成28年7月実施—平成28年度に研究所が実施する 研究課題等に係る意見や要望への対応について

(独)国立特別支援教育総合研究所
研究企画部

平成28年7月に実施した「平成28年度に研究所が実施する研究課題等に係る意見」にご回答いただきました多くの機関の皆様にご心から御礼申し上げます。とりわけ、平成28年度に研究所が2か年で実施する4つの研究課題等に関して様々な貴重なご意見やご要望を頂戴し、心より感謝申し上げます。この4つの新規研究課題（基幹研究）に関して、皆様からの貴重なご意見やご要望を踏まえ、今後も研究を推進して参ります。具体的な今後の対応は、下記のとおり研究課題ごとに明記させていただきます。

また、当研究所の第4期中期目標における研究基本計画に基づいて、平成28年からの5年間で当研究所が実施予定である研究課題とその計画について、たくさんのご意見をお寄せいただきました。これらのご意見は、当研究所の「第4期中期目標期間における研究基本計画」の見直しの際に参考にさせていただきました。

改めて、当研究所の研究課題等に多くの御意見や御要望をお寄せいただき、関係各所の皆様にご心から御礼申し上げます。

【4つの新規研究課題（基幹研究）に関する皆様からの貴重なご意見やご要望への今後の対応】

研究課題名：基幹研究（横断的研究）「我が国におけるインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究」（平成28年度～平成29年度）

ご意見やご要望への対応：

共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育システム構築に関する本研究について、幼稚園、小学校、中学校、高等学校においても非常にニーズが高い研究であることや評価指標に基づく検証に大きな価値があるといったような多くの期待をいただきました。

インクルーシブ教育システムの現状を把握、分析した上で、ポイントを絞ったわかりやすく、活用しやすい具体性のある評価指標の作成についても多くの機関からご意見をいただきました。また、成果と課題について具体的な事例と共に整理し、今後の展望を示すような実践事例集を作成して欲しいといった要望も多くの学校等から出していただきました。

今後も一層、多角的に検討を進め、現状を分析した上で、インクルーシブ教育システムの構築の成果や課題を可視化できるような客観的な評価指標と活用可能な実践事例集の作成を目指してまいります。そして、これらの評価指標と実践事例集の活用がインクルーシブ教育システム推進のための大きな力となるよう、関係諸機関との連携強化に努めていきたいと思っております。

研究課題名：基幹研究（横断的研究）「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究—通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて—」（平成28年度～平成29年度）

ご意見やご要望への対応：

本研究の副題にあります「通常の学級と通級による指導の学びの連続性」での課題整理や提言、また、通常の学級担任を対象とした「手引き書」作成に多くの期待をいただきました。さらに、今回の研究対象ではありませんが、特別支援学校や特別支援学級、知的障害への対応等、今後の研究の参考となるご意見やご要望をいただきました。

本研究は、これまでの教育課程研究や今後5年間の研究計画の中での位置付けであり、通常の学級を軸とした研究となります。ご存じのとおり、通級による指導は、障害による学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした指導を児童生徒のニーズに応じて行うことにより、その指導の効果が通常の学級における授業や

生活において発揮できるようにすることが重要です。作成する「手引き書」の読み手は、通常の学級担任を想定しておりますが、通級指導教室担当者や管理職、教育委員会担当者、さらには地域支援を行う特別支援学校の先生方にも参考にしていただけるものと考えています。私たち研究チームでは、通級による指導の教育課程編成や、通常の学級での授業づくり、環境整備等で活用していただけるような「手引き書」の作成を目指していきます。

次期学習指導要領等では、各段階において、特別支援教育に関する記述の更なる充実がなされます。本研究が、「新たな学習指導要領の円滑実施」に寄与できるよう努めてまいります。

研究課題名：基幹研究（障害種別研究）「特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－各部門の連続性を踏まえた指導の検討－」（平成 28 年度～平成 29 年度）

ご意見やご要望への対応：

特別支援学校（知的障害）での自閉症のある子供の在籍数の増加に伴う教育的な対応の必要性、教員の自閉症教育の専門性の向上、自閉症のある子供に対する学部間等のつながりのある指導の必要性等といった学校現場の課題に対応する研究として、多くのご期待やご要望をいただきました。

全国の特別支援学校（知的障害）を対象とするアンケート調査では、当研究所が過去に実施した調査結果との比較・分析を行うことにより、自閉症のある子供の在籍状況と其实態を踏まえて自閉症教育の現在の進展状況や課題について考察を深めてまいります。また、指導の系統性や一貫性に関わる課題につきましては、当初設定しておりました副題を「学部間、学年間のつながりを踏まえた指導の検討」と修正いたしました。個々の自閉症のある子供の指導目標が、学部間や学年間でどのように引き継がれ、つながりをもって指導が展開されていくか、また、そのために必要なことは何かといった視点から事例的に検討していきたいと考えております。

研究成果につきましては、学校現場での指導・支援に活用いただけるように調査結果を簡潔にまとめたリーフレットや実践的かつ具体的な内容に基づいた事例集を作成し、広く発信していく予定です。

なお、本研究は、特別支援学校（知的障害）に焦点を当てた研究ではありますが、平成 26～27 年度に実施いたしました専門研究 B「特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究」の研究成果を踏まえながら進めてまいります。特別支援教育のセンター的機能の役割を担う特別支援学校（知的障害）の実践を通して、特別支援学級に在籍する自閉症のある子供への指導・支援を考える上で参考となる研究成果が得られるように、研究協力機関と連携して研究を進めてまいります。

研究課題名：基幹研究（障害種別研究）「発達障害等のある子どもの実態に応じた指導内容・方法に関する実践的研究－高等学校における通級による指導の在り方の検討－」（平成 28 年度～平成 29 年度）

ご意見やご要望への対応：

本研究では、高等学校における通級による指導の導入段階の課題について検討するとともに、発達障害等のある生徒の実態や障害の特性に応じた自立活動等の指導内容・指導方法等について検討します。

高等学校における通級による指導の実施に当たっては、担当する教員の専門性の確保と資質の向上、人材の育成は重要です。通級による指導と生活の場である通常の学級における指導との連続性も大切です。校内の支援体制を構築するための教員の特別支援教育に関する必要感等の意識の向上も重要であると考えています。

自立活動の指導については、生徒のニーズに基づく指導内容・指導方法の検討、学校設定教科・科目との関連、履修方法や単位認定等教育課程上の位置付け等についても、その考え方や具体例を示したいと思います。また、早期からの一貫した途切れのない支援に向けては、小・中学校における通級による指導との連続性や情報の引き継ぎ等も重要な観点と考えています。

高等学校における通級による指導は、卒業後の自立と社会参加に向けた進路指導とも関連します。研究協力校における実践研究を通じて、いろいろなスタイルの通級による指導のモデル提案と導入に向けた指針の提案ができるよう研究を進めてまいります。